



## 川面が丘 10月号



令和4年(2022年) 10月 3日 宝塚市立宝塚小学校

校長 藤山 昌生

## 実りの秋

先日、子どもたちが社会科の時間に、先生から出された質問の根拠を調べるために、教科書や資料集、地図帳を開いて一所懸命に探していました。昔から、地図を見るのが大好きなので、私も一緒になって地図帳を調べていました。ご存知の通り、地図帳は単に場所を探すだけのものではなく、特産物や統計資料も掲載されているので、眺めているだけでも楽しいです。地図帳を見ながら、ふと思ったことがあります。訪れたい場所があると、今ではカーナビやスマートフォンで目的地を入力して道案内してもらるのが当たり前になっているなあ、電車などの交通機関の乗り換えも、できるかぎり最適なものを見て自分もそのように動いてしまっているなあ。目的地に確実に到着することはとても大事なことですし、より便利なアイテムを使いこなしていくことも必要なことであることは分かっているのですが、もしかしたら地図や時刻表等を見る楽しさや、そこから得られる「最適」ではない新たな学びをどこかに置き忘れてしまっているのではないかとも思いました。

そんなとき、アントニオ猪木さんの訃報がニュースで流れました。元気の塊のような方が、晩年はまさに難病と闘っておられたことも知りました。いてもたってもいられず、書庫に猪木さんが書いた詩集があったはずと思い、探しだして読み返してみました。そのあとがきには、

詩を書くことによって、私は自分の中で「心の旅」をしているのだろうと思う。過去を見つめ直し、未来に夢を馳せる。そんな人生を豊かにする時間の過ごし方を、詩を書くことで教えてもらった気がする。

『猪木詩集「馬鹿になれ!」』

とありました。将来的には必要に応じてAIが勝手に無駄な回り道も推奨してくれるようなナビゲーションも出てくるかもしれませんが、「この道を行けば どうなるものか」と、人生を豊かにするような時間の過ごし方をいろいろな形で見つけていきたいと思いました。迷いながらゆっくりと自分の道を進んでいくのも、やっぱりいいんじゃないかとあらためて感じました。



秋晴れの中、3年生は、生田さんの田んぼで稲刈りを体験させていただきました。春2、3本の苗を植えたものが、秋には稲穂となりたくさんのお米が実って重そうに“頭(こうべ)を垂れて”いました。刈り取った後もおいしくいただけるお米になるまでにはまだいくつかの作業を積み重ねていかなければならないことも学ぶことができました。